

かねよし

今秋に新工場操業開始

最新鋭加工設備導入進む

各種鋼材・ステンレス、非鉄金属類の加工 木、社長・吉田竜一氏
販売を手掛けるかねよしは、本社工場の近傍に

竣工した第二工場に、レーザや折り曲げ機、複合機といった最新鋭加工設備の導入が進み、今秋中にも操業を開始する運びだ。



「第二工場」外観

第二工場
(敷地約16

50平方メートル、建屋1155平方メートル)は、24年12月に完成した鋼板加工の新事業拠点。

本社工場から徒歩1分という至便な立地で、ここでは主に板厚9ミリから25ミリ程度までの厚物レーザ切断をはじめ、レーザ複合機によるタッパ(ねじ切り)加工と成形および機械加工のほか、折り曲げやバリ取りを行う。レーザ単体機は、独

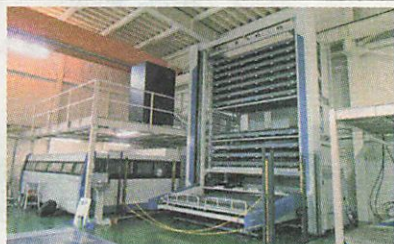


伊中合弁のペンタレーザ製(手前)と独トルンプ製が並列

同社は、鋼板類を主体に普通鋼やステンレス、非鉄金属類を常備。加工設備も豊富に取りそろえ、薄物から厚物までの切断、穴あけ、折り曲げ、タッパ、溶接などを一貫する。注文内容は多岐にわたり、しかも高度化・複雑化する傾向にある。これにきめ細かく対応するには、本社工場では手狭となっていた。近接する第二工場

トルンプ製の10KWファイバーレーザや、イタリア社と中国企業合弁のペンタレーザ製12KWファイバーレーザを設置。9月には多段ストッカーと連動した独トルンプ製の24KWファイバーレーザも新

導入される予定。25ミリの厚までの切断と機械加工をこの複合機が担うことになる。



ファイバーレーザ複合機(村田機械製)